

2012 年合格目標 外務専門職講座
オリエンテーション資料

高田馬場校担任講師 杉原 龍太

＜専門科目：憲法について＞

1. 基本書マスター講義

【基本書】 芦部信喜『憲法（第4版）』（岩波書店）←必携

※事前にご購入のうえ、講義時にご持参ください。

『ベーシック憲法』（Wセミナー）

【到達目標】基本書を通じて憲法を理解する（プレ）。そして、古典的・基本的な一行問題（例：「私人間に憲法を適用することは可能か論ぜよ。」）対策として知識を整理する（基本書マスター）。

【復習方法】基本書・条文を繰り返して理解しながら読みこむ（最低5回）。ベーシック憲法を参考にしながら、典型論点を自分なりにまとめる。

（例）論点：憲法の私人間効力

①直接適用説：＜定義＞＜批判＞

②非適用説：＜定義＞＜批判＞

③間接適用説（通説・判例）：＜定義＞＜問題点＞→「国家同視説」

プレ基本書マスターが11回、基本書マスターが12回になります。

プレでは、憲法の全体構造の基本を押さえます。基本書マスターでは、もう少し詳しく、典型論点ごとのまとめを意識しましょう。

2. ベーシック答練

【到達目標】答案の書き方を覚える（形式面重視）。

3. 特別対策講義

【到達目標】事例問題（論評問題含む）や応用一行問題（←実は一番やっかい）に対応できる力を養う。つまり、基本書マスターで得た知識を基礎として「憲法的思考力」を鍛える。

4. 論文答練

【出題内容】事例問題・応用一行問題出題（まれに基本問題も出題）

【到達目標】特別対策講義で鍛えた思考力を表現できるようになること。

＜全体のイメージ＞

①一行問題対策

→基本書マスター講義で input、ペースメーカー答練で output。

②事例問題・応用一行問題対策

→特別対策講義で input、論文答練で output。

③答案構成の練習

→ベーシック答練（←一行問題に誘導を加えて容易にしたもの）

＜専門科目：国際法について＞

1. 科目の性質についての心構え

(1) 国際法の難解さ・量を受け入れ覚悟を決めて取り組むこと

→専門3科目中最も量が多く最も困難な科目。一朝一夕に力がつくような科目ではないので、こつこつと蓄積していく。国際社会を規律する世界共通のルール。

(2) 英米法的・帰納法的体系に慣れること

- ・日本人は、大陸法・制定法の伝統から「初めに条文ありき」が当然と思い、その趣旨から解釈する習慣があります（演繹法）。
- ・これに対して、国際法には英米法的要素が半分ほど混ざっています。すなわち、判例の積み重ねがそのまま法になっていく発想に慣れる必要があります。次のケースに使えないか、と考えながら学びます。

→講義の中で必要な判例は図解するので大丈夫。

2. 基本書マスター講義の内容と目標

国際法全分野のバランスのとれた「理解」。

『ベーシック国際法』『図解資料・問題集』を通じた講義内容の理解と復習。最終的には「この問題は、あの章のあの節の辺りに書いてあったな…」とわかるぐらいに骨格をつかむことです。

→問題別に考える特別対策講義の下地となります。

ブレ基本書マスターは12回、基本書マスターは15回になります。
ブレ基本書マスターでは本当に重要な骨子のみ限定し、国際法の全体構造のイメージをつかみます。基本書マスターでは、比較的細かい事項についても解説を加えます。

3. 教材と講義内容

(1) 講義教材

- ・『ベーシック国際法』(Wセミナー)…①
- ・『国際法図解資料集』(Wセミナー)…②
- ・『国際条約集』(有斐閣)(その他の出版社のものでも可)…③

毎回必携

※③は事前にご購入のうえ、講義時にご持参ください。

①②は、これまで黒板に板書してきたものをまとめたものです。内容は、本試験の直接の素材となっている「基本書」(学者が書いた教科書)を要約したノートです。従来は、すべて講義時間中に黒板に書いていたのですが、それでは時間が足りなくなり、科目の全範囲を終わらせることができなくなりました。本試験の範囲は膨大なのに対して講義コマ数は限られています。そこで時間短縮・効率化のために作られたのがこれらの資料です。

中学・高校までは、板書をゆっくり丁寧に書き写すことが「お勉強」だったかもしれません。しかし、そうした勉強スタイルは大学以降は、根本的に卒業する必要があります。(例えば、中学・高校の先生は、ゆっくり板書しながら1年で歴史の全範囲を現代まで終わらせることができたでしょうか。また、それが難関大学の受験に十分な情報量を網羅できていたでしょうか。外務専門職試験は最も難しい公務員試験の一つです。基本的に受け身の勉強姿勢では合格は望めません)。

講義スタイルは、これらの資料に基づき、基本的に口述で解説されます。その際に、「アンダーライン」「重要」「ポイント」「覚えてください」と強調します。また重要な点は、何度も繰り返し同じことを言います。そういう点は、資料に書き込んでください。ただ、口述されたことを何もかも書き写さなければならぬわけではありません。強調された点のみを書き込み、自分の資料を汚していけばいいのです。

基本的に覚えなければいけない要点は、ベーシックに既に書いてあります。かつて板書していたものが、板書している時間がもったいないといわれ、穴埋めレジュメになり、穴埋めも予め書いておいてほしいという要望があって、進化して現在のスタイルになりました。さらに、補完しなければいけないことだけを板書しますので、余白に書き込んでいってください。

(2) 自習教材

基本書：杉原高嶺他共著『現代国際法講義(第4版)』(有斐閣)

or 杉原高嶺『国際法学講義』(有斐閣)

基本書は、しらみつぶしに読む必要はないです。重要な箇所はほぼ講義で指摘してある。その周辺を中心に読み、講義で解説していない部分は知らなくてもよいです。最終的にはベーシックだけを覚えれば合格レベルに達します。

判例集：松井芳郎編『判例国際法(第2版)』(東信堂)

『図解資料集』に講義中の板書内容を書き込みます。必要な重要判例は講義ではば解説しています。判例集は、授業で解説した判旨で気になった部分を調べるのに必要な範囲に留めてください。国際判例は規模が一つ一つ大きく膨大なため、授業で触れていない部分は読み飛ばしてください。講義では、簡単な事実関係も口述していますが、結論だけ言っても覚えられないのでストーリーを織り交ぜて解説しています。試験に出る部分は、板書・図解・ベーシックに出てくるポイントだけで十分です。

4. 復習

暗記の要素と体系的理解の2点があります。

- ・まず『ベーシック』の内容を理解し、重要と強調された点を、覚えて再現できるようにする。→人に説明できるようにする(試験が論述試験のため)。
- ・法学用語は非日常語＝一種の外国語です。慣れないうちは違和感があって当然です。
- ・ベーシック国際法基本問題集(1問1答集)を使って主要な定義や要件を覚える。繰り返し見る、読む、唱える。法学は蓄積と経験がものをいう科目です。「記憶」という作業は誰がやっても原始的な作業です。実力の差は結局のところ忍耐力と努力の差です。
- ・全体構造の理解
1章終わるごとに、自分で見出しを拾って、独自の目次を作ってみる。このとき、ルーズリーフ1ページ以内に収めて、一目できるようにすることがポイント。目次はそのまま国際法の体系性を意味しますので、自分でまとめることが体系理解に直結します。インターネットのホームページでいう「サイトマップ」というものです。また、他の章との「リンク」(→クロスレファレンス)を意識し、有機的な理解を目指しましょう。

5. ベーシック答練(8月～9月 6回)

問題の類型別整理と書き方の基本的ルールを押さえる。

6. 特別対策講義(10月～1月 13回)

論述マスターを使って過去問・予想問題を演習。

高度な応用力・思考力を鍛える。

(+ペースメーカー答練…基本～軽い応用問題の通信添削)

7. 論文答練(2～4月 6回)

範囲指定しながら本番と同じ時間配分で答案作りの実践。

＜専門科目：経済学について＞

1. 外務省専門職員採用試験の経済学

(1) 1997 年(平成 9 年)から大学教授が試験委員。

- ・ 1997 年～2005 年
有賀裕二(中央大学商学部教授)
里見常吉(明治大学経済学部教授)
- ・ 2006 年～2008 年
里見常吉(明治大学経済学部教授)
藤田誠一(神戸大学経済学部教授)
- ・ 2009 年～
藤田誠一(神戸大学経済学部教授)
武田 巧(明治大学経済学部准教授)

(2) ミクロ経済学・マクロ経済学・国際経済学から 1 問ずつ計 3 問出題。

- ・ 3 問中 2 問選択。2 時間で解答。

(3) 知識レベルは“並”、思考レベルは“高”。

- ・ 試験問題は講義でインプットした知識で十分対応できる。
- ・ 論述試験を通じて、「理解力・判断力・表現能力」が試される。
- ・ 2005 年以降、計算問題が出題されている。

(4) 中学卒業程度の数学の知識は必須。微分も必要。

- ・ 四則計算(文字式の計算)
- ・ 分数の計算
- ・ 1 次関数・2 次関数
- ・ 1 次方程式・2 次方程式・連立方程式
- ・ 微分
- ・ 指数法則

プレ基本書マスター講義および基本書マスター講義では、できる限り数式・計算は使わずに講義を進めていきます。数学の知識が不安な人のために、基本書マスター講義と特別対策講義の間で、経済数学対策講義を行う予定です。

2. 勉強・学習の姿勢

姿勢1.『考える』ことを重視する。

＝知識中心・暗記中心の勉強では合格答案は書けない。

姿勢2.『復習』を重視する。

＝前に学習したことを理解できないと後のことが理解できない。

姿勢3.『基礎』を重視する。

＝合否の鍵は基礎知識が徹底されているかどうか。

これらの姿勢はプレ基本書マスター講義から1次試験まで貫いてほしいものです。また、他の専門科目にも通じる姿勢と言えます。

3. プレ基本書マスター講義について

(1) 位置付けと講義の目的

プレ基本書マスター講義 (15 回)＝インプット

↓
基本書マスター講義 (23 回)＝インプット

↓
第 1 回～第 13 回 ミクロ経済学 (国際ミクロを含む)
第 14 回～第 23 回 マクロ経済学 (国際マクロを含む)

↓
ベーシック答練 (6 回)＝アウトプット

↓
特別対策講義 (9 回)

＝アウトプット

↓
論文答練 (6 回)

＝アウトプット (本番形式)

↓
公開模試

↓
本試験 (2012 年 6 月中旬)

講義の目的

- ・「基本書マスター講義」の準備段階として、経済学の考え方 (論理と方法) に慣れること。
- ・経済学の根幹部分の骨組み・全体像を把握する。
→経済学独特の考え方に慣れること、経済学の骨格を掴むことが大きなアドバンテージになる。

(3) 講義の進め方

- ・書き込み式のテキスト『ベーシック経済学』にしたがって講義を進める。
- ・講義の中で指示する Exercise を通じて、経済学の考え方に慣れる。

(4) 勉強の進め方

- ・きちんと復習をしてから次の回に臨む。
 - 理解できた点と理解できなかった点を明確にする。
 - 最低でも「前回の講義で何をやったのか」という点を認識できるようにする。
- ・最初は細かい点に捕らわれず、大きな流れを理解する。
 - 経済学は一通り学習してからわかってくる。
 - まずは経済学のストーリー展開・あらすじを把握する。
- ・自分の手を動かし、作図の練習をする。
 - 図(線や点)の意味を「読み取れる」ようにする(図は“絵”ではない)。
 - 図は何度も自分で描いて、白紙の状態から「描ける」ようにする。

(5) 持ち物

- ・2012 年合格目標『ベーシック経済学』(必携)
- ・2012 年合格目標『経済学図表集』(必携)
- ・ノート(任意)

＜利用方法に関して＞

講義日程	・別冊の「外務専門職講座 日程表」を参照 ※1
受講教室	・「今日のTAC」にて、掲示
テキスト	・納品次第、掲示板にて通知される。 ※2
欠席・復習用の フォロー制度	・重複受講(本科生限定)
	・校舎間振替受講
	・DVDフォロー(有料) ※3
	・Web+音声DLフォロー(本科生特典)
質問・相談制度	・個別カウンセリング
	・合格者アドバイザー制度(9月～3月)
	・講義終了後(随時)
	・質問コーナー
	・質問カード※4
試験情報	・ホームルーム(学習法・各種お知らせ)
	・外務省業務説明会 など

詳細は、別冊の受講ガイドをご覧ください。

※1 講義日程のほか、DVD・Web・DLの「視聴開始日」も「外務専門職講座 日程表」をご参照ください。また、日程や日程変更に関しては、WセミナーのHPでも確認することができます。

※2 公務員講座専用掲示板の設置場所は、各校舎の受付窓口でご確認ください。

※3 教室講座の受講生が、DVDフォローを利用する場合、有料(1回500円)です。

※4 受講ガイドの巻末の「質問カード」をコピーしてご利用ください。

(東京外国語大学ロシア語専攻4年)

長期留学経験：なし

海外長期生活経験：なし

資格：TOEIC公開テストスコア 675 点 (2008 年 9 月受験)

①勉強開始時期、1 日の勉強時間

夏まで特に英語対策行わず。昨年 9 月、試しに TOEIC 受けたところ予想外の点数にショックを受け、とりあえず高校生の時に使用していた英単語帳「Duo3.0」の復習から始める。同時に 10 月から「外交官のための英語講座」を受講し、英訳和訳のコツをつかむ。4 月からは毎日 1 時間を英語対策に費やす。

②模試、本試験での出来

オール模試の結果：偏差値 52 程度

本試験では和訳に時間をかけすぎたため英訳の時間がほとんど取れず、一度も見直しをしないまま、制限時間いっぱい終了。なんとか全ての問題は解いたが、全く自信なし。

③Wセミナーの講座受講歴、おすすめ講座

「外交官のための英語講座」(現在は「外務専門職英語試験対策講座」)

英語対策を何から始めていいかわからないという方にお勧めします。問題はそのときに合わせたホットな話題を提供してくれ、そこで時事的な英単語、使える言い回しを暗記しました。

④使用した教材

『茅ヶ崎方式 月間英語教本』(茅ヶ崎出版)

12 月から購入し、毎月、国際関係の問題を 3～5 問ほどピックアップして英訳の対策をしました。

『外交官 問題と対策』(法学書院)

5 年間分の過去問 (和訳) を時間を計って取り組みました。

⑤勉強法 アドバイス

英語は TOEIC のスコアアップに傾倒しがちですが、本試験では TOEIC のスキルは必要ありません。本試験で必要なスキルは何かを見極めて効率良く対策してほしいと思います。和訳では自然な日本語になるよう思い切った意訳を、英訳では全く異なった表現でもいいので自分の知っている英単語の範囲で言い換える練習を繰り返してほしいと思います。

公務員試験併願

外務専門職試験の論述力を活かして併願しやすい職種・自治体採用試験

- ① 防衛省Ⅱ種 国際関係 (21年最終合格者、英13人、露1人、中3人、朝2人)
筆記試験科目：一般教養(選択式2時間30分)、国際関係論(選択式)、語学(記述式、選択式)、時事論文試験(記述式1時間30分)
- ② 防衛省Ⅱ種 語学 (21年最終合格者、英26人、朝6人)
筆記試験科目：一般教養(選択式2時間30分)、語学(記述式、選択式)、論文試験(記述式1時間30分)
- ③ 都庁Ⅰ類B (22年採用予定454人)
筆記試験科目：一般教養(選択式2時間)、専門試験(記述式2時間、憲法、経済学、財政学)、論文(課題式1時間50分)
- ④ 横浜市 (22年採用予定200人)
筆記試験科目：一般教養(選択式2時間50分)、専門時事論文(憲法、経済学)
- ⑤ 神戸市 (22年採用予定80人)
筆記試験科目：一般教養(選択式2時間30分)、専門択一試験(憲法、経済原論、財政学、英語、国際関係論、国際経済学でいける)
- ⑥ 大阪市 (22年採用予定30人)
筆記試験科目：一般教養(選択式2時間30分)、専門記述試験(憲法、経済原論でいける)、論文試験(時事)
- ⑦ 参議院事務局Ⅱ種 (21年最終合格者15人)
筆記試験科目：一般教養(選択式2時間)、専門試験(短文記述式1時間、憲法、経済学のいずれか)、専門試験(記述式1時間、憲法、経済学のいずれか)
- ⑧ 国立大学法人 (21年1次試験最終合格者1098人)
筆記試験科目：一般教養(選択式2時間)のみ

※最新情報は各自必ずHPなどで確認すること。

○ 外務省専門職員採用試験

	試験種目	解答題数 解答時間	内容
第1次試験	基礎能力試験 (多枝選択式)	40題 2時間20分	公務員として必要な基礎的な能力(知能及び知識)についての筆記試験 知能分野27題 文章理解、判断推理、数的推理、資料解釈 知識分野13題 自然・人文・社会(時事を含む。)
	専門試験 (記述式)	6題 2時間	憲法、国際法、経済学についての筆記試験
	外国語試験 (記述式)	4題 2時間	和文外国語訳及び外国語和訳についての筆記試験 英語、フランス語、ドイツ語、ロシア語、スペイン語、ポルトガル語、イタリア語、オランダ語、アラビア語、ペルシャ語、ウルドゥ語、ヒンディー語、ミャンマー語、タイ語、ベトナム語、インドネシア語、中国語、朝鮮語から1カ国語を選択
	論文試験	1題 1時間30分	時事問題についての筆記試験
	人物試験		人柄、対人的能力などについての個別面接及びグループ討議 (個別面接の参考として性格検査を実施)
第2次試験	外国語試験 (面接)		外国語についての個別面接による試験 英語、フランス語、ドイツ語、ロシア語、スペイン語、ポルトガル語、イタリア語、オランダ語、アラビア語、ペルシャ語、ウルドゥ語、ヒンディー語、ミャンマー語、タイ語、ベトナム語、インドネシア語、中国語、朝鮮語から1カ国語を選択
	身体検査		主として胸部疾患(胸部エックス線撮影を含む。)、尿、その他一般内科系検査

- (1) 私が外交官として生きた時代のほとんどは、実は、外交の座標軸は明確で、対外政策の面で多くの選択肢があった時代ではなかった。太平洋戦争、敗戦、連合国による占領、サンフランシスコ講和条約、日米安保条約、アジア諸国との戦後処理を経て、冷戦の中で民主主義体制を守る「西側の一員」として西側の連帯をはかる以外の選択肢は事実上なかったと言っても過言ではない。冷戦終了後も、米国の一極体制の中で日米関係を重視し、米国との協調の下で外交を進めていくことが最適の選択であったのだろう。

しかし、二十一世紀は外交の前提となる国際環境が質的に変化しつつあるのである。単純化して言えば、グローバル体制の中の多極化ということであるし、日本の対外政策の選択肢も増えたのである。受動的ではなく能動的に政策を選択していかざるを得ない時代と言ってもよいかもしれない。

能動的に政策を展開していくためには、政策判断の基準になる座標軸が明確でなければならないし、座標軸に沿って政策を実現する戦略が必要となる。

日本外交の拠って立つ座標軸は、多極化時代においても大きく異なるわけではない。日本の国家としての価値である民主主義体制と自由な経済体制を守り、国益を増進するということだろう。

(田中均「外交の力」)

- (2) 日本人は言葉に対する感覚が希薄です。そのことに私は危機感をもっています。新しい言葉が出てくると、早く取り入れることばかりが意識されがちです。外国語なら、カタカナに置き換えてそのまま導入する。意味を深く理解し長く使われる言葉に置き換えることがなされません。その時、その時に間に合えばよいという感覚で、刹那的です。

さらに、日本人は「記録に残す」という意識も希薄です。アメリカやイギリスでは、例えば政治家や外交官など世の中を動かす人たちは、自分の成し遂げたことを誰かに文章にしてもらい、後世に残そうという意識をもっています。米国政府は大統領ごとの「パブリック・ペーパーズ」を刊行しています。それも退任後しばらくしてです。

(猪口 孝, 外交フォーラム 2006 年 1 月号)

(注) 出典を訳す必要はありません。

- (1) FIFTY YEARS ago, the sociologist Seymour Martin Lipset pointed out that rich countries are much more likely than poor countries to be democracies. Although this claim was contested for many years, it has held up against repeated tests. The causal direction of the relationship has also been questioned: Are rich countries more likely to be democratic because democracy makes countries rich, or is development conducive to democracy? Today, it seems clear that the causality runs mainly from economic development to democratization. During early industrialization, authoritarian states are just as likely to attain high rates of growth as are democracies. But beyond a certain level of economic development, democracy becomes increasingly likely to emerge and survive.

(Foreign Affairs 2009 年 3 ~ 4 月号)

- (2) We, the human species, are confronting a planetary emergency— a threat to the survival of our civilization that is gathering ominous and destructive potential even as we gather here. But there is hopeful news as well: we have the ability to solve this crisis and avoid the worst— though not all— of its consequences, if we act boldly, decisively and quickly.

However, despite a growing number of honorable exceptions, too many of the world's leaders are still best described in the words Winston Churchill applied to those who ignored Adolf Hitler's threat: "They go on in strange paradox, decided only to be undecided, resolved to be irresolute, adamant for drift, solid for fluidity, all powerful to be impotent."

So today, we dumped another 70 million tons of global-warming pollution into the thin shell of atmosphere surrounding our planet, as if it were an open sewer. And tomorrow, we will dump a slightly larger amount, with the cumulative concentrations now trapping more and more heat from the sun.

As a result, the earth has a fever. And the fever is rising. The experts have told us it is not a passing affliction that will heal by itself. We asked for a second opinion. And a third. And a fourth. And the consistent conclusion, restated with increasing alarm, is that something basic is wrong.

(Al's Journal, Nobel Prize Acceptance Speech)

(注) 出典を訳す必要はありません。

<国際法>

以下の問題のうち 2 題を選択して解答しなさい。

- 1.現代国際法における規範形成のあり方について、伝統的国際法の場合と比較しながら論じなさい。
- 2.犯罪人引渡について、犯罪人引渡条約が存在する場合と存在しない場合に分けて、論じなさい。
- 3.国際連合安全保障理事会の決議の実施について、加盟国の主権との関係で、論じなさい。

(2010 年度外務専門職試験本試験)

科目 (該当科目に○)	憲法・国際法・経済学	第()回・第()問	実施校舎 (ex. 高田馬場校)
----------------	------------	-------------	---------------------

[illegible]